

■ 徳島県内の木材生産状況の情報整理【平成23年度】

	植栽・保育	伐採・搬出	製材	乾燥	仕上・プレカット加工	その他
概況	・主伐が少ないため新植面積は減少 ・植栽木のシカ被害が深刻化 ・人工林の過半が材として利用可能 ・森林の成長量は年間100万m3以上	・今後5年間で人工林の過半が主伐期 ・県プロジェクトにより搬出間伐を推進 ・架線集材の技術は全国トップクラス	・中小規模の工場がほとんどを占める (年間平均原木消費量2,400m3) ・歴史的に板材の産地 ・構造材の製材工場は少ない ・ヒノキ製材は少ない	・もともと板材の天然乾燥が主流 ・人工乾燥機の導入は最近 ・ほとんどが蒸気式乾燥機	・プレナー等の仕上げ加工は工場・ プレカット・現場と様々 ・住宅はプレカットが9割	・国産材合板工場 1工場 ・集成材パネル工場 1工場 ・国産材MDF工場 1工場 ・三層ボード工場 1工場
量	・人工林の植栽面積 (H22) 102ha <(S40) 4,604ha> ・スギ蓄積量 4,470万m3 (うち51年以上1,913万m3) ・ヒノキ蓄積 594万m3 (うち51年以上が159万m3)	・素材生産量 (H22) 20.6万m3 うち主伐 12.5万m3 間伐 8.1万m3	・製材工場数 県内118工場 ・素材消費量 28.2万m3 (うち県産材 12.7万m3) ・製品出荷量 18.7万m3 板類が46%と大半を占める	・人工乾燥機導入工場 30工場 ・25%以下の製材品出荷量(H21) 人工乾燥 4.6万m3 天然乾燥 5.9万m3	・プレカット工場 県内8工場 ・材料入荷量 5.6千m3/年	・国産材合板工場 素材消費量 14.1万m3 うち県産材 5.4万m3 ・集成材パネル工場 素材消費量 3千m3
規格 寸法	・1ha当たりの植栽本数 従来3千本植えが近年2千本植えに ・優良材生産のための枝打ち等は減少	・素材の材長 3m以下 [12%] 4m [85%] 5m以上 [3%] ・搬出間伐 フォワーダで最長6mまで可能 ・主伐 長さ12mまで運材可能 (林道の幅員・カーブ径に制限される)	・調達可能な県産材製材品の基本寸法 別紙【県産製材品の一般流通材】参照 ・節の規格 無節、上小節、小節 ・製材JAS取得工場 構造材目視等級区分の取得が11工場	・人工乾燥機の規格 〈材長〉 最大9m 〈容量〉 50m3以上 13% 30~50m3 35% 20~30m3 30% 20m3未満 22%	・仕上がり寸法 納品場所・条件の違いで ミリ単位の指定が必要 ・プレカット全自動ライン 〈材長〉 6mまで 〈角材〉 15cm角まで 〈柱材〉 幅 15cmまで 梁成 45cmまで	・構造用合板 厚12、24~28mm、 910×1,820mm、1.0×2.0m ・三層ボード(Jパネル) 厚36mm、 910×1,820mm、1.0×2.0m
時期 時間	・保育作業 〈1~5年〉 下刈り 〈5~35年〉 除伐・切捨間伐 〈35~50年〉 搬出間伐 〈51年~〉 主伐可能	・製材用素材の伐採適期 8月盆明けから2月まで ・葉枯らし乾燥の期間 山元で2~4ヶ月乾燥 ・長尺材・特殊材は納品まで期間が必要	・材長4mを超えるもの、断面の大きい ものは納品まで期間が必要	・天然乾燥 構造材 6ヶ月以上 板材 3ヶ月以上 ・中温乾燥(〜100℃) 柱材 10~14日 横架材 2~3週間 ・高温乾燥(100℃〜) 柱材 5~6日	・プレカット工場生産能力 120~130坪/日(1社平均) ・プレカット工場納期 約1ヶ月 (発注〜CAD〜納品まで)	
品質 性能 強度	・苗木の品質 県の採種園から採取した種子を使用 徳島在来品種を使用	・素材の樹種別比率 スギ70% ヒノキ20% マツ2% 広葉樹8% ・生産性 搬出間伐は5m3/人日 主伐は8~10m3/人日	・徳島すぎの品質 色つやが良く、比較的強度が高い 材色による分類 赤身、白太、 源平(赤白)、黒芯 ・徳島すぎ強度分布 〈E50〉 6% 〈E70〉 39% 〈E90〉 46% 〈E110〉 9%	・天然乾燥材の品質 色つや 香りは良いが表面割れ有り ・高温乾燥材の品質 表面割れは無いが内部割れのリスク 色つや 香りは劣る ・中温乾燥材の品質 天然と高温の中間 ・建築基準法の基準 無垢材では20%以下が要求される	・寸法仕上げ プレナー モルダー ・化粧仕上げ サンダー(研磨) かなな うずくり ・側面加工 本突、目すかし、 相じやくり、エンドマッチ ・構造材以外にも、羽柄材・合板の プレカット加工も可能	
コスト	・標準的なコスト 植林 80万円/ha シカ防護柵設置費 72万円/ha 下刈り 11万円/ha 枝打ち 23万円/ha 切捨間伐 11万円/ha	・搬出間伐のコスト 平均的な事業費 52.8万円/ha(80m3生産) ・主伐のコスト 7千円/m3(林野庁全国平均 運材費含む) ・市場手数料 はい立て料1,000円/m3 手数料7% ・平均原木価格(H22) スギ中目4m 13,792円 ヒノキ小径3m 15,042円	・標準的な製材コスト(県内調査) 13,241円/製品m3あたり 製品/原木の歩留まりは平均66% ・製材品の単価傾向 別紙資料参照	・標準的な人工乾燥コスト 厚さ120mmまでの部材 1.0~1.2万円/m3 厚さが増すごとにコストも上がり 厚さ240mmで2.0~2.4万円/m3 ・天然乾燥のコスト 乾燥土壌・倉庫の賃貸料 乾燥中の金利負担	・県産材住宅のプレカットコスト 7,000円前後/坪 木造公共施設も同様 ・プレカットでのモルダー加工費 2,000円前後/坪 ・大工による手刻み加工コスト 2~3人工/坪	
その他		・県内の原木市場は7市場 徳島市1 小松島市1 神山町1 上勝町1 那賀町1 美馬市1 三好市1 ・高知、愛媛等から11.7万m3が移入(H22)	・徳島の製材業の特徴 消費地である京阪神に近く、需用の変化 に迅速に対応して製品を変え、品質の向上 に努めてきたので、今日の様に多くの 中小規模工場が成り立っている。	・木材は含水率30%以下になると 含水率の低下に比例して強度が向上 ・減圧方式等新しい人工乾燥技術も	・含浸・防腐処理加工 県内2工場 使用薬剤 タナリスCY マイトレックACQ	